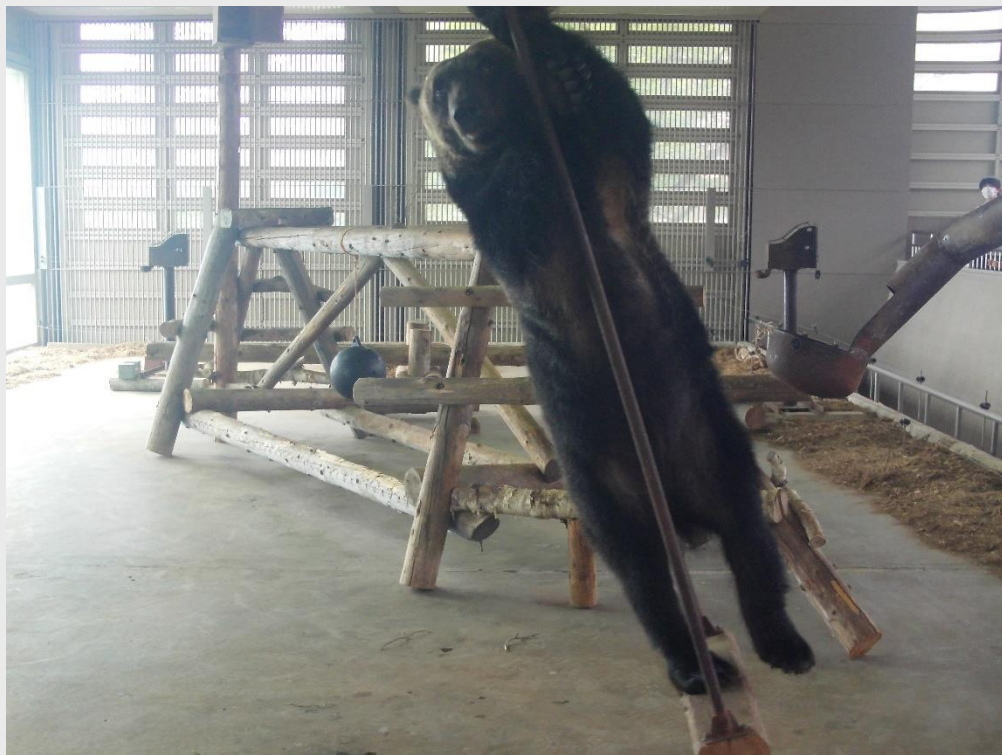


ブランコに乗りたいくなる魔法！？



自らの意思でブランコに乗るショコラ =8月22日

飼育員は見たべあ！

のぼりべつ
クマ牧場通信
39号

2020年
9月1日

発行

のぼりべつ
クマ牧場
動物課

クマがブランコに乗る？

1日2回「クマのアスレチック」
というクマの行動に合わせて飼育
員が解説を行うイベントがありま
す。その中に、クマがブランコに
乗るシーンがあります。クマは通
常、ブランコに乗るなんてことは
しません。これまでは餌で誘導し
てブランコに乗ってもらう方法で
したが、クマの習性・ショコラの
個性的な特徴を生かし、自発的に
乗りたくなるように改善を行いま
した。

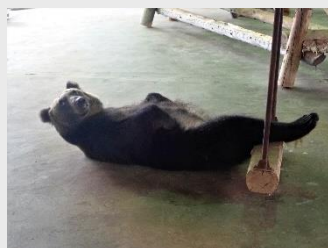
ポイントは、クマの習性を活か
し、ロープを活用して好物を吊し
たところからです。最初はロープを長
めに設置していたこともあり、す
ぐには乗りませんでした。ブラン
コの横で立った状態で背伸びをし、
吊るしてある餌を前足でパンチし
て、ゲットされてしまっていました
。しかし、それではブランコに
乗ってくれません。そこで、ロー
プの長さを少しずつ短く調整して
いくと、徐々に背伸びしても餌が
取れない高さに調整でき、ブラン
コに自発的に乗るようになりまし
た。ただ、試行当初はブランコ滞
在時間が短く、あっという間に降
りてしまっていました。なかなか
長時間乗ることが難しく、次の課

題がでてきました。



ヤナギの枝を取り付け
改良後のブランコ
=8月8日

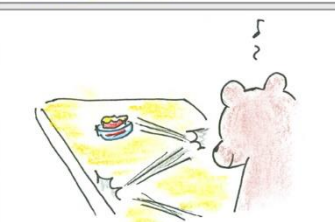
ブランコの滞在時間を延ばすた
め、すぐに食べ終える餌ではなく、
葉の沢山ついたヤナギの枝を利用
しました。すると、葉の量もあり
ブランコに乗る時間が自然と長く
なりました。クマの習性上ヤナギ
の葉だけを綺麗に食べ、枝だけが
大量に残るため、再利用の方法を
考え、枝に野菜やオヤツを取り付
け、ブランコの上部に吊るす方法
を実践しました。上手く爪を使わ
ないと取れないので長時間ブラン
コに乗ってくれるようになりまし
た。現在は自発的にブランコに乗
り、片足をあげて一生懸命に餌を
取る姿が頼もしいです。クマのバ
ランス感覚、ショコラの個性的な
姿を是非ご覧ください。



アスレチック中に、リラック
スした様子を見せるショコラ
=8月15日

のぼクマ劇場

なる作



世界初！
ヒグマにMRI

ショウヘイ(2才)が、6月25日、世界で前例のない「クマのMRI検査」に挑みました。ショウヘイは、昨年より時折、突然意識消失をおこしてしまふ「てんかん」の症状をみせており、のぼりべつクマ牧場でも原因追究のため検査を行ってききましたが、原因の特定には至りませんでした。

そこで、「酪農学園大学付属動物医療センター」に精密検査の依頼を行い、MRIと脳脊髄液検査を行う事になりました。「てんかん」は生前に原因の特定が難しい病気です。死後の病理検査の報告は、ホッキョクグマなどでありますが、ヒグマが生前にMRIの検査をした記録は、世界のどこにもありませんでした。当日、ショウヘイは全身麻酔下でMRI検査を行い、脳に腫瘍や炎症な



MR I 室へ搬入される
麻酔下のショウヘイ
=6月25日

どの異常が無いことが確認されました。また、全身麻酔中にうなじに針を刺して脳脊髄液を採取する「脳脊髄液検査」も無事に終え、異常がないことが分かりました。

検査結果から、現在は「特発性てんかん」として、環境をショウヘイに合わせて、必要に応じて薬で「てんかん」症状をコントロールするなどのケアを行っています。

検査後、2か月以上経ちましたが、この2か月間に意識消失の症状は見られていません。まだまだ若いショウヘイ。これからビッグなスターになるべく、すくすく育ってもらいたいと思います。



初体験のリンゴ入り氷を必死に食べるエース
=8月8日

暑い夏。
水中果物開幕！

今年も登別に暑い夏がやってきました。子グマ牧場では、8月8(23日)の毎週土・日・祝日に「水中果物プレゼント」を開催しました。子グマに暑い夏を楽しく乗り切ってもらおうという毎年恒例のイベントで、リンゴが入った氷の塊を子グマにプレゼントし、飼育員が解説を行います。子グマにとっては氷自体が初体験となるイベントです。

初日、子グマの「エース」は、初めての氷と大勢のお客様に圧倒されたのか、警戒モードでした。飼育員が近くに持っていくと、少し気にするようになり、10分ほど経つと、やっと食べ始めました。要領が分かると、前肢と歯を器用に使って、カチカチに凍ったリンゴを勢いよく食べ始めました。凍った固いリンゴをかじれる歯の丈夫さと顎の力。おそるべし。



アイヌコタンの曲の秘密

ロープウェイ山頂駅からヒグマ博物館の前を進むと、茅葺の家(チセ)が立ち並ぶアイヌコタン「ユーカーラの里」があります。コタン(集落)に近づくにつれてウポポ(歌)が聞こえてくると言います。座り歌やリムセ(踊り)で歌う歌、全てアイヌ語で歌われていますが、意味を持たない掛け声も多く含まれる、アイヌ独特の音楽です。豊作を祈ったり、鳥や動物や自然の様子を歌ったり、作業歌や子守歌や儀式の歌、なかには二人の女性が一人の男性を奪い合う様子を歌った「色男の舞」や、近くにクマが現れたの知らせるために叫んだ声を表したという歌も。

曲については、ポロチセ内にてパネルで紹介していますので、そちらもご覧ください。(※アイヌ民族文化財団から寄贈していただいたフンペ・シスターズのCD「フンペ・テレケ」を使用しています)



ユーカーラの里
アイヌコタン
=8月24日